



国民民主

KOKUMIN MINSHU PRESS

国民民主党 国民民主プレス 編集部

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-3 Nagatacho GRID 4F

TEL: 03-3593-6229 MAIL: info@new-kokumin.jp

HP: new-kokumin.jp

・発行所: 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 丸の内ビルディング4F

福岡市博多区版



号外
2023.3

政治に ビジネス 視点を!!



野田きよし

NODA KIYOSHI

博多をアジア経済の中心に!!

国民民主党（玉木雄一郎代表）は本年4月に実施される福岡市議会議員選挙博多区選挙区に、新人の野田きよし氏（46）を公認すると発表した。

野田きよし氏はアメリカのネバダ大学に留学。帰国後、リクルートを経てベルギー企業に就職。働きながら名古屋商科大学大学院と千葉商科大学大学院でMBAを取得。

その後、スイス企業の日本法人立ち上げを任せられ、フランスやカナダ企業の日本進出にも携わっている。自身もこの福岡市を拠点にコンサルティング事業を立ち上げ、代表を務めている起業家だ。

そんな野田きよし氏がなぜ福岡で市議会議員を目指すのか。

野田氏はこれまで国内外で様々な都市で暮らしてきた中で、海外に比べて未成熟な政治、労働環境の悪化、教育・研究分野の窮乏など、日本で国民本位の政治が行われているか疑問に感じるようになった。

振り返って福岡市では、人口も増加し、税金も毎年増加し、天神地区や博多駅周辺では再開発が加速するなど、明るい話題の多い元気な都市という印象がある。

しかし一方で、市民目線で本当に「安心・安全なまちづくり」「住環境の整備」が行き届いているのか。「出産・育児の環境」は充分か。労働者が豊かさを実感し、「安心して働ける職場環境と賃金」になっているのか。「まだまだ課題は山積している」と野田氏は言う。

「福岡市は政府から国家戦略特区に指定され、規制緩和の恩恵を受けて、天神ビックバンを始めとするハード面に注力してきましたが、今後はソフト面での政策が、より重要な局面になっています」と野田氏は指摘する。「私は真に、赤ん坊からお年寄りまで市民の皆様が福岡で暮らして良かったと思えるような福岡市政を実現したい。そのために博多区から市議選に挑戦し、議会で政策実現のために尽力したいのです」と野田氏は熱く訴えている。

「落ちこぼれだからこそ、 何度でも挑み、成果にこだわる」

Interview



野田きよし (46)



▲北嶺中・高等学校1年生
(当時13歳)

ご自身の事をお聞かせください。
元々、福岡出身ではないのですよね？
野田きよし はい、私は1976年に愛知県で生まれました。46歳です。3歳の娘の父親でもありますので、子育て世代ど真ん中です。会社員の父が転勤族であったため、北海道の札幌で育ちました。小学校から高校までは、札幌の学校で学びました。
その後、米国へ留学し、外資系企業に勤務したこともあって様々な国へ渡航した経験があります。その上で、やはり日本が最も住みやすく、中でも妻の実家である福岡県があらゆる意味で最高でしたので、「ここを」終の棲家」と決めました。

経歴をみると、順風満帆のエリート人生に見えます。

野田 全くそんなことはなくて、基本的に落ちこぼれ人生なんですよ(笑)
特に学生時代は悲惨でした。

どんな学生時代を過ごしたのですか？

野田 教育熱心だった母親の影響で、私立中学校(6年制)を受験、入学しましたが、会社経営者や医師・歯科医師の子息が多く在籍し、高偏差値大学や、医・歯学部を目指す集団生活に馴染めず、落ちこぼれ、2年でドロップアウトしました。

その後、なんとなく入学した公立高校では、学校に行く意味も見いだせず、不登校に。幸運にも担任の先生に助けられ、出席日数、成績共にギリギリで、なんとか3年間で卒業できました。

高校卒業後は人生の目標を見つけられず、4年間ニート生活を経験しました。

その後一念発起し、1年間英語の勉強をして、米国に留学しました。

どうして国内ではなく、留学を選択したのですか？

野田 ある事がきっかけで心理学を学びたいと強く思い、最初は心理学を学べる国内大学を探しました。しかし当時はまだ心理学は日本の大学で教え始めたばかりだったり、心理学科を新設するタイミングだったり、正しい進学先なのか迷いました。

本気で学ぶのであれば、より研究も進んでいる米国の大学に行くべきだと判断し、その為には英語が必要だと考え、英語の勉強をしました。全く英語は出来ませんでしたので。

現在のTOEICスコアは930ですよ？

野田 高校では約500名の生徒の中で、後ろから2番目でしたし、記念受験したセンター試験でも25%に満たない正答率だったと記憶しています(笑)

TOEICも試験勉強はしたことが無く、留学や外資系企業勤務で日常的に英語を使用していたことで、自然にスコアが上がったのだと思います。



▲留学準備学校時代
(当時23歳)

米国留学中は中学・高校時代とは違い、良い成績を取めたと聞きました。

野田 そうですね、高校卒業してニート4年+留学準備1年、同級生と比べて5年も遅れている焦り。

そして何より、その機会を与えてくれた両親に結果を見せたかった気持ちがありました。しっかりと学び、良い成績で卒業することは最低限の義務だと、自分に課していました。

最初に入学したコミュニティカレッジ(2年制大学)とその後編入した4年制大学では、オナーズプログラムという成績優秀者の為のプログラムに参加し、最終的にマグナ・クム・ラウデという優等学位を得て卒業しました。

コミュニティカレッジ(2年制大学)では、留学生ながら生徒会長を務めたこと？

野田 はい、4年制大学に編入した後、2年制大学でも単位を取り続けて、生徒会長を2期務めました。私の留学していた州では、州立の大学を管理・運営する中央組織が存在しており、それは住民に選挙で選ばれた教育委員の方たちと、各大学の学長、教員の代表、一般職員の代表、そして生徒の代表が定期的集まり、重要事案を相談、決定しております。

私も在籍していたコミュニティカレッジの生徒代表として2年間参加しておりました。



▲ネバダ大学リノ校卒業式にて
オナーズプログラム長と共に
(当時27歳)
ガウンの下は紋付袴で出席

卒業後、就職活動はどうでしたか？

野田 日本人留学生を採用しようと、多くの日本企業が米国で開催されていたジョブフェアに出展していましたので、私も参加しました。

米国では様々な差別を防ぐために、履歴書に写真の添付や年齢の記載を行いません。ですので、私も多くの企業の書類選考を通り、面接の機会を頂きましたが、面接の場で27歳という年齢がわかると、軒並みお断りされました。企業側からすると22歳、23歳の新卒採用が前提で、27歳の私は対象外でした。

ですので、内定ゼロの状態での帰国となり、当時両親が住んでいた仙台の実家に戻り、就職活動を続け、何とか情報誌を出版する企業の期間限定契約社員として職を得ました。

留学中の成績、課外活動等は評価されず、非正規雇用でのキャリアスタートで本当に悔しい気持ちでした。

その後、転職されて正社員になられていますよね？

何かきっかけがあったのでしょうか？

野田 父の大病がきっかけでした。関東で働いていた兄が仙台に戻り、入れ替わりで私が東京に働きに出ました。

その際勤めた日本のベンチャー企業は、役員退職に伴い所属部署が消滅してしまい、1年に満たない勤務でした。

しかし、その後ベルギー企業の日本法人に採用されて、外資系でのキャリアがスタートしました。

この企業で働きながら、名古屋商科大学大学院、千葉商科大学大学院の2校を修了し、その後、スイス企業の日本法人の立ち上げを行い、通算約10年程キャリアを重ねたのち、福岡でコンサルティング事業を立ち上げ、フランス、カナダ企業の日本市場進出等に携わってまいりました。

これまでの経験を踏まえ、福岡市議選にかける意気込みを教えてください。

野田 政治にビジネス視点を持ち込み、とことん成果にこだわる市政を実現したいと考えています。それは、皆さんが職場で当たり前に行っていることを政治に取り入れるということです。

例えば、福岡市は約10年前から新規の起業、新たな産業を創出する「スタートアップ」強化に取り組み始めています。様々な前向きな実績を残してきていますが、結果を客観的に見ると、上場企業は1社も出てきていませんし、ましてやユニコーン企業は望むべくもありません。

もし民間企業であれば、プロジェクトに遅延や、望んだ結果が出てこなければ、原因を検証し改善を繰り返す、担当者や責任者を入れ替えて、目標達成をどん欲に目指すのが当たり前ですし、それでも成果が出なければプロジェクトの打ち切り、事業からの撤退という手段を選択します。

福岡市が担う事業にビジネス視点によるチェック機能を取り入れる。これが私の役割だと考えています。



イメージキャラクター
「クマなのだ」



野田陽志(のだ・きよし)

1976(昭和51)年愛知県生まれの46歳。
2016年に福岡を終の棲家と定める。
ネバダ大学リノ校(政治学・心理学)卒業。
名古屋商科大学大学院(MBA-マネジメント)、
千葉商科大学大学院(MBA-会計ファイナンス)修了。
TOEICスコア 930

高校時代は不登校。卒業後はニートとなる。
23歳で一念発起して米国留学し、卒業したのは27歳。
新卒内定はゼロで、キャリアは非正規雇用からのスタート。
日系ベンチャー企業、外資系企業でキャリアを重ね、
会社に勤めながら大学院を修了。
外資系企業日本法人代表、コンサルティング事務所代表等を歴任。
現在、国民民主党 福岡県連 常任幹事(福岡市博多区担当)

野田きよし
が福岡市政で
目指すもの

福岡の平均賃金を アジアNo.1の水準へ!!

国政での課題は、国民民主党が掲げる「給料の上がる経済」の実現です。

福岡はアジアに一番近い都市です。アジアからの観光客の誘致、観光資源の活用が重要です。

また、国内外からの国際会議等のイベント誘致も経済の波及効果を高めます。

しかし、インバウンドへの依存は、今回のコロナ禍の様な状況に陥った際のリスクが高い。その為、他の産業の強化も急務です。

例えば、福岡市は農林水産業が盛んなので、新鮮な農水産物の海外輸出強化が、農漁業者の育成と所得確保に繋がると考えます。

そして、何よりも重要なのが新たな産業への投資です。政府は経済成長を促す施策の一つとして、今年度を「スタートアップ創出元年」と位置づけ、新規事業を積極的に支援する方針を打ち出しました。1兆円規模の予算も検討されておりあります。

こういった経済・ビジネスの話題になると、東京が中心と思いますが、今回のスタートアップに関しては福岡が中心であると信じています。前述の通り福岡市は政府が強化を打ち出す約10年も前からスタートアップ強化に取り組んできました。福岡市は先見の明があつたと一市民として誇らしく思います。同時に、海外との差が当時よりも開いてしまっている現状に忸怩たる思いも抱えています。

目指す方向性は間違っていないか、その進め方に問題があつたのではないかと、それを指摘、修正すべき議会が十分なチェック機能を果たせていなかったのではないかと考えています。

ビジネス、IT、スタートアップ、ベンチャーキャピタル、新たな産業を生み出し、育成する上で必要な知識、経験を持った議員が少なかった、もしくはいなかったのではないのでしょうか。

私は、IT企業の日本・韓国事業のゼロからのスタート、その責任者を努めた経験もあります。その知識、経験を活かし、新たな産業、事業、雇用を生み出し、働く皆さんの平均年収、可処分所得をアジア一の水準にする、福岡をアジア一豊かにする、「福岡をアジアナンバーワン都市にすることが目標です。」

その目標達成には必要不可欠な事がいくつかあります。

国に先駆け、 18歳までの教育を 完全無償化

一つは教育です。

海外の優秀な人材と競い、互角以上に渡りあえる、日本を支える人材を育成することが急務です。

これは子供だけではなく、我々現役世代、そしてシニア層のスキルアップ、学び直しも含まれています。

そして最も重要な、子供への投資です。少子高齢化は静かなる有事、国難と言われています。

子供は国の宝です。にもかかわらず、出産・育児、子育てへの投資が十分ではありません。

これまで国民民主党は国会で児童手当などの「所得制限撤廃」を提案しており、賛同者は与野党に拡大しつつあります。

生まれた子供が成人を迎えるまで、国・自治体は親権者と共に責任を持つべきだと思います。

その為に、医療制度、行政サービス、教育支援をどのように提供するのか、それを考えるのが政治の役目であると思います。

国民民主党福岡県連は、共通政策として所得制限のない18歳までの教育費用の無償化を訴えています。これは、国に先駆けて県・市独自で実施可能です。実現に向けて尽力いたします。

野田きよしが志す政治家像は、目先にとらわれすぎず、10年、20年あるいは50年先の福岡や日本の姿を思い描き、その姿を市民、国民に示し、諸政策の実現、諸課題の解決に愚直に取り組む人物です。

私は、アメリカで4年間生活し、複数の外資系企業に勤め、様々な国籍、価値観、バックグラウンドを持った人たちと働く中で、日本の強み、弱みを目の当たりにしてきました。

世界と競い、リードしていく、その為に、日本の政治・経済に変革をもたらす、牽引するの福岡市ほど理想的な都市はないと感じています。

給料を上げる。 まち 街を守る。

統一地方選2023
共通政策
【福岡版】



国民民主党
代表 玉木雄一郎

教育を完全無償化し、あらゆる所得制限を撤廃します。



- 新生児が生まれた家庭に毎月オムツを無償で届け、子育て経験者が相談に乗れる制度を創設
- 保健師・医師などによる妊娠時から高校卒業までの伴走型支援を制度化
- 児童手当の所得制限撤廃
- 児童手当給付を18歳まで延長
- 幼児教育・保育無償化の所得制限撤廃
- 給食費、教材費、修学旅行費を含め、教育に係る教育負担をゼロに
- 高校授業料無償化の所得制限撤廃
- 障がい児福祉の所得制限撤廃
- 0歳から18歳までの医療費を無償化
- 学生への「仕送り控除」制度を創設
- リモート授業など教育のデジタル化

スキルアップを支援し、所得水準を引き上げます。



- 保育士、教職員、保健師、看護師、介護従事者の給料水準を引き上げ
- 中小企業の社会保険料事業者負担半減
- 「130万円の壁」等の税・社会保険等の歪みを是正
- リカレント教育(学び直し)支援
- リスキリング(職業能力の再開発)支援
- 研究開発など高度人材の育成推進
- フリーランス・ギグワーカーの教育・雇用環境を整備
- リモート(在宅)勤務実施事業者の減税
- スタートアップ・起業支援の税制と融資
- U/Iターン移住希望者と中小企業のマッチングシステムを構築
- 起業支援税制・融資制度の整備

誰もが安心して、活躍できる地域社会を作ります。



- 再エネ賦課金の徴収停止と原発再稼働により電気代を値下げ
- トリガー条項凍結解除によりガソリン代を値下げ
- ガス等燃料代値下げの補助金創設
- 障がい者や高齢者の人材活用、就職、起業を支援
- 完全自動運転の電気自動車による巡回バスを実用化
- 非常電源・公衆無線LAN・衛星電話設置
- 認知症サポーターへの支援、組織化
- 成年後見人制度の活用促進
- 「地域医療基本条例」を制定し、地域医療を守る枠組みを作る
- 農業者戸別補償制度の再構築

「対決」より「解決」で政策実現を先導

実績

国民民主党は、これまでの批判一辺倒な野党ではなく、政策提案型の新しい政党として国会で以下のような政策を実現して来ました。地方自治でも「対決より解決」の姿勢で、住民の皆様にとって必要な政策を提案し、実現して参ります。

電気代値下げ

電気代値下げを参院選で唯一訴え法案提出

- ▶ 令和4年度第2次補正予算で事業者向けに1kw当たり3.5円、個人向けに1kw当たり7円相当の補助金を措置

自動車の補助金継続

電気自動車等クリーンエネルギー自動車購入補助の予算が枯渇寸前になり予算追加を提案

- ▶ 令和4年度第2次補正予算で財源追加

災害対策

台風15号や8月の豪雨災害について被害を視察し状況を首相に説明、早期復旧を直談判

- ▶ 令和4年度第2次補正予算で災害復旧予算、防災・減災・国土強靱化のための予算が措置

内密出産のガイドライン発出

様々な事情から匿名を望む母親が特定の人にだけ身元を明かして出産する「内密出産」の法整備を働きかけ

- ▶ 政府が内密出産のガイドラインを公表

防衛3文書改定

「安全保障政策2022」を取りまとめ首相に申し入れ

- ▶ 防衛3文書に反撃能力の保有やミサイル防衛強化、防衛費増額などが明記

悪質献金被害救済

心理的支配利用に伴う暴利行為による寄付の募集禁止、家族による損害賠償を可能とする議員立法等を取りまとめ政府与党と協議

- ▶ 上記考え方がベースとなり「法人寄付不当勧誘防止法」が成立

「人への投資」を加速

結党以来、人への投資、社会人の学び直し支援を訴え続ける

- ▶ 令和4年度第2次補正予算で「人材開発支援助成金」拡充

こどもみらい難民の救済

省エネ住宅の新築・改修を補助する「こどもみらい住宅支援事業」で、申請出来なかった方(こどもみらい難民)の救済を大臣に要請

- ▶ 後継事業「こどもエコすまいる支援事業」の要件の見直しを政府が発表

野田きよし後援会 お困りごとなどありましたらお気軽にご相談ください。

〒812-0896 福岡市博多区東光寺町1-14-8 (1-E) TEL:090-4057-0741 FAX:050-3737-9668

